

芸術文化創造センター整備についての考え

1 整備を取り巻く現状

(1) 建設費の高止まり

建設費が高止まっており、インフレスライド条項を適用すると、建設費の総額は、かなり増加することとなる。

(2) 整備内容

現時点で整備すると、基本計画の全てを実現することはできず、また、整備内容に対する建設費が割高になることから、基本計画を精査する必要がある。

(3) 国からの交付金

これから交付金がどのくらい交付されるのかは、流動的である。

(4) 市総合計画（後期基本計画）の策定

入札不調により事業が延期となり、現時点で整備に着手すると、他の大規模事業と整備時期が重なるため、芸術文化創造センター整備の時期や建設に充当する一般財源の額を後期基本計画策定作業の中で見極める必要がある。

2 整備についての考え

芸術文化創造センターは本市の芸術文化創造の拠点となることから、平成31年度までの建設工事着手を念頭に置き、引き続き整備を推進する。

なお、建設費の高止まり等、この事業を取り巻く厳しい現状に鑑み、建設に充当する一般財源の額、整備内容、整備手法については再検討し、今秋までに決定する。

今後の検討には、実施設計に至るこれまでの作業の成果や、事業提案に向けた意見募集を通じて得られた知見などをできる限り生かしつつ、市として望ましい整備のあり方を目指す、というスタンスで臨む。

3 市民会館について

当面は、必要最低限の維持・修繕を行い、予期せぬ不具合が生じた場合は、その対応をどうするのか、改めて検討する。